

面白い、変わった行動というもの、予期せぬ時にとった行動です。当の本人はなにが起こったのか理解できず戸惑っ

ている状態なので、面白いという表現は失礼なことかも知れません。こういった行動は観察している方も予期せぬことな

のでそれを記録することは殆ど出来ていません。言葉だけの表現でどこまで伝わるかわかりませんが、2点を紹介します。

●魚が大き過ぎてなかなか呑み込めない

巣立ち後、3ヵ月が経過した幼鳥は、自らハンティングを行ない、川面を一晚中でも眺めています。何回か飛び込んでいましたが、捕まえることは出来ません。そんなある夜 親鳥が大きな魚を掴んで幼鳥の近くに飛来しました。親鳥はフードコールを発し幼鳥を呼びました。幼鳥もすぐに反応し親のもとへ、そして給餌を受けた。ここまではよくあるケース。魚を受け取った幼鳥は一気に飲み込もう

とするが、魚が大き過ぎて呑み込めない。真上を向いて呑み込もうと喉をいっぱい伸ばししゃくると、身体が反り返り、そのまま後ろ向きに地上まで落下。地上では口から魚を1/3ほど出して、目を見開きキョロキョロと辺りを見渡し10分が経過。やがて幼鳥は何事もなかったかのように魚を吐いたまま飛び去って行きました。

ワシミミズクでもこんなことがありま

した。巣立ち直後の幼鳥が、口からタヌキの片足の1/3ほど出して静止しているのを観察したことがあります。消化するのに待っているのですが、息をするのも苦しそうでした。



●着木に失敗しひっくり返り 枝にぶら下がる

落ちることは前述と同じですが、アイヌ語でシマフクロウのことを「枝と共に折れる、落ちる」と呼ぶ地域があります。



おかしい名前だと思っていたら、その現実に直面して「なるほどなあ」。シマフクロウは枯れ木をよく利用します。そしていつも止まる枝は同じです。年月が経過しもろくなった枝は、シマフクロウが着木したときその重みで枝が折れることがあります。そしたらシマフクロウは枝を掴んだまま地上まで落下するのです。普通の鳥なら地上までに枝を放し、

体制を整えて飛び去っていくのですが、シマフクロウはなぜか地上まで落下。それも枝を掴んだまま。そして照れくさそうな顔（私感です）をして飛び去っていききました。この半世紀に同じような光景を15回ほど見ましたが、地上まで落下しなかったのはたったの1回だけでした。こういったところもシマフクロウの魅力の一つなのでしょう。



●本誌面でもご紹介しましたとおり、生息地でシマフクロウの保護、研究に尽力されている6名の活動家の方及び長年にわたり、シマフクロウの飼育や繁殖、展示による啓蒙活動等に携わってこられた各地域の3つの動物園への支援金の贈呈が決まりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、贈呈式や記念講演会の開催は難しい状況のため、上記の皆様には、目録の送付と支援金の振込にて代えさせていただき予定でございます。

●賛助会員・寄付を募集しています 当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆さまの賛助会員としての参加と寄付を募集しています。当会のホームページからも手続きが可能となっておりますので、ぜひご覧ください。令和2年8月24日付で当会は「認定NPO法人」の認定を受けましたので、当会に対する寄付金・賛助会費は税制上の優遇措置を受けることができます。（詳しくは当会ホームページのお知らせをご参照ください）

【認定NPO法人北海道シマフクロウの会 事務局】(担当:米谷・久保木・西尾)
〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階 (株)北海道二十一世紀総合研究所内 TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683
URL: <http://hokkaido-shimafukurou.org/> E-mail: info@hokkaido-shimafukurou.org

北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌

第27号



写真: 山本純郎



第2回シマフクロウ保護活動支援金贈呈の対象先が決定

NPO法人北海道シマフクロウの会 事務局

令和2年12月18日に当会の第2回理事会が開催されました。その議題の中で、本年度の事業計画の柱であるシマフクロウの保護活動に携わっておられる方々に対する支援について審議を行い、令和3年2月を目途に次のとおり支援金の贈呈を行うことを決定しました。

支援金額は、諸事情を勘案のうえ、10万円～20万円の範囲になる予定です。

また、同理事会においては、最近の新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、多くの方にご出席いただくような支援金贈呈式や記念講演会等の開催は難しいことから、贈呈式、記念講演に代えて、受贈者の皆様から日頃の取組や今後の活動予定などについて、当会のホームページ及び会報紙面で発表していただくことになりましたのでご報告いたします。



支援金贈呈対象先

- 山本 純郎氏 (根室市) …………… 第1回からの継続支援
- 早矢仕 有子氏 (札幌市) …………… 第1回からの継続支援
- 竹中 健氏 (札幌市) …………… 第1回からの継続支援
- 齊藤 慶輔氏 (釧路市) …………… 第1回からの継続支援
- 田村 康教氏 (釧路町) …………… 第1回からの継続支援
- 高田 令子氏 (根室市) …………… 第1回からの継続支援
- 札幌市円山動物園 (札幌市) …………… 今年度新規支援
- 釧路市動物園 (釧路市) …………… 今年度新規支援
- 旭川市旭山動物園 (旭川市) …………… 今年度新規支援



「SDGs」を契機に 生物多様性の保全 への協働を

NPO法人
北海道シマフクロウの会 理事長
横内 龍三

新型コロナウイルス (COVID-19) が瞬く間に世界中に拡散し、パンデミックの脅威との闘いに明け暮れた1年間が過ぎた。昨年は、「生命の安全を重視するか、それとも円滑な経済活動の確保に重点を置くべきか」といった、国や地方公共団体の政策のバランスのとり方に、国民の関心が集まった1年間でもあった。一方、ポスト・コロナの世界をどのように構築すべきかといったテーマも多くの議論を呼んだが、こうした議論に関連して、「SDGs (持続可能な開発目標)」という言葉が、しばしばマスコミに取り上げられた。

説明されることが多い。SDGsが昨年特に注目されたのは、2030年が目標達成の年とされているところから、昨年が目標達成までの「行動の10年」のスタートの年とされたからである。コロナ危機が人類存続の危機と重なって、これまでになく「持続可能」な取り組みが強く意識されたと思われる。

前置きが長くなったが、SDGsの目標14 (海洋)、目標15 (陸) は、海と陸の生物の多様性保全を取り上げている。地球環境の維持・改善は、今や人類にとって喫緊の課題であり、我々一人一人が身近でできることを確実に実践していくことが求められている。絶滅危惧種のシマフクロウの保全活動もいわばこうした生物多様性の保全の実践活動の一環としてとらえることができる。絶滅危惧種シマフクロウの保全は、あくまで身近な具体的なターゲットであって、目指すべきゴールは生物多様性の保全、ひいては地球環境の保全である。我々一人では何もできないが、5人、10人、100人と集まることによって大きな力を生み出すことができる。コロナ危機の中であって、SDGsの意義を踏まえ、生物多様性の保全への協働を改めて強く呼びかけたい。

SDGsは、「Sustainable Development Goals」の頭文字をとった略語で、国際社会が協働して地球規模で取り組むべき目標として、2015年9月の国連総会において、加盟国193か国の全てが賛成して成立した合意目標である。SDGsには、17の目標 (Goal) と169の具体策 (Target) が掲げられている。スペースの制約上、本欄で、17の目標の全てを解説することはできないが、この17の目標は、人間 (People)、地球 (Planet)、繁栄 (Prosperity)、平和 (Peace)、パートナーシップ (Partnership) の「5つのPの原則」に分類され

事務局より

国分北海道株式会社様より 道産酒「島臯」シリーズの売上金の一部を ご寄付いただきました

昨年、一昨年と食品卸道内大手の国分北海道株式会社様から、同社が販売する道産酒「島臯」シリーズ売上金からのご寄付をいただきましたが、今年も総額384,800円のご寄付をいただくことと

なり、12月11日 (金) に贈呈式が行われました。当日、国分北海道株式会社様の黒沢社長様より目録を頂戴し、当会横内理事長から、シマフクロウ保護活動の支援のため大切にに使わせていただく旨の



お礼の言葉をお伝えしました。このご寄付については、これからも続けてお取組みいただけることになっています。

対象商品

- 島臯 十勝ブランデー 熟成30年
- 島臯 十勝ブランデー 原酒
- 島臯 甘熟スイート ルビー 20年
- 島臯 甘熟スイート ホワイト 20年
- 島臯”梅“32年 計2,329本

国分北海道株式会社様では、「島臯」シリーズとして、上記の商品を発売され、売上の一部を当NPOへご寄付いただいております。札幌駅のどさんこプラザや市内デパートのほか、主要ホテルの飲食店でも提供されていますので、ぜひご購入、ご賞味のほどお願いいたします。

